



「生産技術代行商社」を目指す株式会社ヤスヒラ。同社は1937年の創業時から、各種工作機械・工具を販売し播磨地域においては、生産財専門商社のTOPディーラーとして、約1,000社の顧客と取引している。同社のITを推進している営業企画室では、2014年にSophos Firewall XGS 2100を導入し、サイバーセキュリティ対策の強化とテレワーク環境の整備を実践してきた。そして、さらなる脅威に備えるために全社員が利用しているPCとサーバーにSophos MDR Completeを採用した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



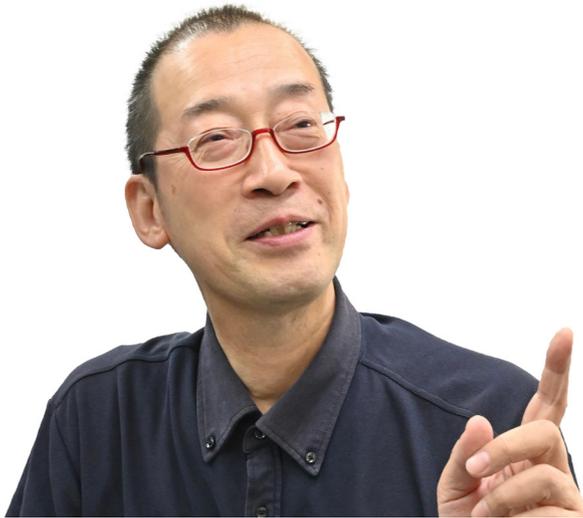
株式会社 ヤスヒラ

本社所在地 〒670-0981兵庫県姫路市西庄甲108

電話(079)294-4000 FAX(079)294-4001

WEBサイト <https://www.yasuhira.com/>

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Complete



24時間365日の監視と、何かが起これば原因の調査から復旧までの支援があるので、Sophos MDR Completeで不安は解消されると採用を決めました。

株式会社ヤスヒラ
常務取締役
中川 量夫 氏

機械工具の販売を目的として、昭和12年(1937年)に安平一男商店として兵庫県姫路市で創立された株式会社ヤスヒラ。生産技術代行商社として、各種工作機械や工具の「情報収集」「商品選定」「社内設備製作」などを代行し、顧客製造業の「モノづくり」を支え続けている。取引先は、播磨地域だけで1,000社を超え、大手メーカーから小規模事業者まで、幅広く対応している。また、サイバーセキュリティ対策においても、経営トップが担当者の裁量を信頼し、必要な投資を積極的に推進してきた。そうした背景のもと、同社は2014年のSophos Firewall XGS 2100導入をきっかけとし

て、信頼できるITパートナーの助言を得て2022年にSophos MDR Completeを採用した。

ビジネスチャレンジ

「Sophos Firewall XGS 2100導入をきっかけにソフォスへの信頼度を高める」

株式会社ヤスヒラの常務取締役で、同社のIT導入を推進してきた中川量夫氏は、サイバーセキュリティ対策に取り組んできた経緯を次のように振り返る。

「ソフォスという社名と製品を知ったき

かけは、2018年にITパートナーから紹介されたSophosUTM(現SophosFirewall)SG210というUTM(統合脅威管理)製品でした。導入当初は、サイバー攻撃の脅威から社内のシステムを守る用途に使用していましたが、『働き方改革』に本格的に取り組むために、Sophos UTMをリモートワークでも活用するようになりました。2019年までは、リモートワークを活用する社員は限られていましたが、2020年のコロナ禍により全社員がノートPCを活用して、リモートワークを実践する環境を整えました」。2022年に上位機種であるSophos Firewall XGS 2100にアップグレードし、

コロナ禍においてもリモートワークを実践し、業務を円滑に推進してきた同社では、一方でサイバーセキュリティ対策に関して、もうひとつの課題を抱えていた。中川氏は「大手メーカーとの取引も多い当社には、定期的に『セキュリティ対策』に関する調査があります。Sophos Firewallで外からの異常な侵入を防ぐ対策は実践していましたが、リモートワークの普及に伴って社員が利用するノートPCへの対策が、旧世代のエンドポイントセキュリティ製品で十分なのか、という不安が残っていました」と課題を話す。

テクノロジーソリューション

「他社が5年間は追いつけない最高峰のサイバーセキュリティ対策が求められる」

株式会社ヤスヒラのサイバーセキュリティ対策に取り組んできた中川氏は、ソフォス社認定ゴールドパートナーで、同社のITパートナーとして長い信頼と実績のあるシオタニ株式会社に相談した。検討にあたり「社長の安平

からは『競合他社が少なくとも5年は追いつけないレベルまで一気に駆け上がってください』という条件のほかは、予算も製品の選定もすべて一任されました。また、Sophos Firewall XGS 2100の導入時から、シオタニの対応力と導入後のサポート体制には、絶大の信頼を持っていたので、Sophos MDR Completeの提案も短期間で採用を決めました。Sophos MDR Completeは、24時間365日の監視と、何かが起これば原因の調査から復旧まで支援してもらえるので、これならサイバーセキュリティ対策の不安は解消されると確信しました」と中川氏は選定の経緯を説明する。

2018年に年商35億で約40名の事業規模だった株式会社ヤスヒラは、2024年には従業員数が72名と増え、年商も57億を超える成長を遂げた。事業の成長と拡大を続ける同社にとって、取引先からも信頼されるサイバーセキュリティ対策の導入は必須であり、同時に中川氏を含めたIT部門の負担軽減も重要な課題となっていた。中川氏は「Sophos MDR Completeの提案で注目したのは、完全なリモートでのインシデン

ト対応でした。過去に、離れた営業所のPCがウイルスに侵入されてフリーズしたことがあります。そのときは、私が現場に出向いて対応しなければなりませんでした。現在の経営規模で、同じようなインシデントが発生したら、業務に大きな支障をきたします。Sophos MDR Completeならば、そうした労力も軽減される点を評価しました」と補足する。

ビジネスインパクト

「Sophos MDR Completeの導入で安心感と社内ITのモラルアップを実現」

2023年から利用を開始したSophos MDR Completeは、ITパートナーのシオタニのサポートにより、円滑な導入と運用管理を実現した。導入の成果について、中川氏は「Sophos MDR Completeを運用してから約2年が経過しましたが、これまでにインシデントは一件も発生していません。安全に守られているという安心感があります。導入の初期には、一部のアプリで設定

の変更なども必要になりましたが、シオタニの担当者が迅速に対応してくれたので、業務に影響を与えることはありませんでした」と評価する。

その一方で「PCから閲覧されているサイトの情報が分析できるようになりました。その結果、複数の社員が業務とは関係のない娯楽関係のサイトを閲覧している、という警告がありました。そこで、閲覧しているPCの端末番号などは開示せずに、全社員に報告したところ懸念されるアクセスはなくなりました。結果的に、社内のIT利用に関するモラルがアップしたと思います」と成果を付け加える。さらに「私自身も、一度だけ巧妙なフィッシングメールに騙されて、不用意にリンクをクリックしてしまったのですが、その直後にSophos MDRで監視されるInterceptXがサイトをブロックしてくれて、すぐに詐欺メールだったと気が付きました。こうした経験からも、日々守られていると実感しています」と中川氏は感想を話す。

フューチャービジョン

「MDRの監視強化やSophos NDRによるネットワークの監視も検討していく」

今後に向けたサイバーセキュリティ対策について、中川氏は「FirewallやSophos MDR Completeの導入に関しては、当社の課題をITパートナーのシオタニに相談して、最適な提案をもらってきました。今後も、当社の課題を解決する対策を提案してもらいたいと思います。直近では、来客用に提供しているWiFiに関しても、接続性や安全性を高める対策について相談しています。また、最新の工作機械はネットワークへの接続や遠隔操作など、システムも高度化しています。そうしたセキュリティ製品がインストールできない機器の安全性を確保するために、Sophos NDR(Network Detection and Response)によるネットワークトラフィックの継続的な監視や分析が、効果的

かどうかなども、ITパートナーから検証や提案をもらえたらと期待しています」と話す。さらに「今年の春から、ITに興味を持っていた私の息子が、当社の情報システムやサイバーセキュリティを担う人材として採用されました。社長の安平も、親子二代で会社に勤めることを喜んでいますが、今後は、社内ITの業務を引き継いでもらうためにも、ITパートナーやソフォスからの情報提供に期待しています」と中川氏は展望を語った。



「競合他社が少なくとも5年は追いつけないレベルまで一気に駆け上がってください」と語った株式会社 ヤスヒラ 代表取締役社長 安平 亮氏